

【研究主題】

「遊び」を生かして主権者を育てる社会科・公民科を中心とした小中高連携カリキュラムの開発

【開発するプログラムの概要】

「意思決定」に関わる資質や能力を軸として、社会科・公民科を中心に、算数科・数学科、体育科・保健体育科の3教科で「知・情・意」を意識した連携を図り、「遊び」を活用しながら「合意形成」をテーマにカリキュラム・マネジメントを通じた小中高を一貫する主権者教育の一つの学習プログラムを開発する。

実践内容 ※開発するプログラムから一部抜粋

<高校・2年生> 公民科（現代社会）

【単元名】政治参加と民主政治の課題
(2(2)イ,3(2)イ(ウ))

【主な単元の目標】

- ・基本的人権の保障、国民主権、平和主義と我が国の安全について理解を深め、日本国憲法に定める政治の在り方について国民生活との関りから認識を深める。
- ・民主政治における個人と国家について考察し、政治参加の重要性と民主社会において自ら生きる倫理について自覚を深める。
- ・障害者とのやりとりを踏まえ、社会の課題を解決するために、社会を構成する個人としてどう生きるべきか、考え、表現する。

【学習課題】

国民の多様な意見が政治に反映されたより社会の実現のために、私たちに、社会を構成する一人としてどのような姿勢（態度）が求められるのだろうか。

時間	主な学習内容
	公民科（現代社会）
1/2	選挙と選挙制度
3	よりよい社会の実現のために 「インクルーシブな選挙制度の実現のために」（本時）

※ 単元名の（ ）内は学習指導要領の内容の該当番号

【実践例】 ※公民科（現代社会）「インクルーシブな選挙制度の実現のために」 第3/3時

授業の概要

＜概要＞ 3校種共同意識調査で見えてきた高校生の持つ意識の課題は「障害＝身体障害」という限定的な理解であった。これを打破し、広く障害者との共生のために改善すべき制度上の課題についての検討を行う。

- ・ゲストティーチャーから障害ゆえに生じる選挙に関する困難（投票前の情報収集や投票所など）についてお話しいただく。
- ・ゲストティーチャーの話を踏まえ、特に発達障害を抱えた人が選挙に参加できるように改善すべき制度をテーマにワールドカフェでのディスカッションを行う。
- ラウンド1「課題の発見、解決策検討」
- ラウンド2「解決策の拡張」
- ラウンド3「解決策のさらなる深化」
- ・各グループでの議論をまとめ、解決策についてゲストティーチャーへ提案し評価をいただく。

＜指導上の工夫＞

○地域や社会生活における具体的な課題等を自分との関わりの中で捉えられるようにするための指導上の工夫

成年年齢に近づいている高校2年生にとって主体的に取り組みやすい「選挙」をテーマの軸に据えた点。

○小中高を一貫する学習プログラムに資する工夫

小中高の連携による共通項は「合意形成」。高等学校段階では具体的な制度に関して真に求められている改善点を当事者との対話から読み取り、実現可能な制度設計を検討する。

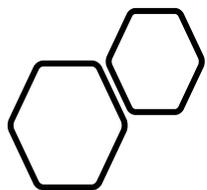
専門家や関係諸機関等との連携・協働

- ・発達障害当事者（当事者としての視点から生徒と対話）
- ・障害者雇用を積極的に推進する企業

効果等

- ◆実際に発達障害の方を交えて議論することで、相手を意識して自分の意見を伝える力及び相手の意見を受け取る力の伸長が図られた。
- ◆ゲストティーチャーから提案内容の評価を受けながら提案内容を精査することで、考察を深めることにつながった。





実践の様子

附属高等学校

